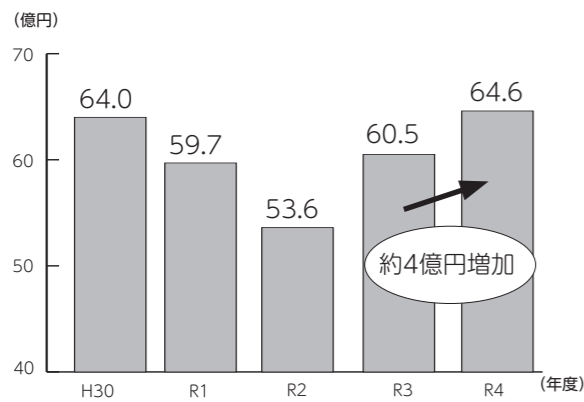


## 貯金と借入金

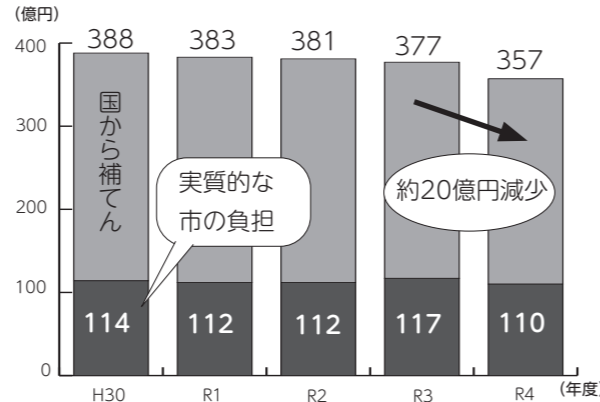
貯金(基金)の残高は、神戸電鉄三木駅を整備するために積み立てていた寄附金など5.7億円を取り崩す一方で、前年度からの繰越金やふるさと納税寄附金など9.8億円を積み立てたことにより、令和3年度から約4億円増加して64.6億円となりました。

また、借入金(市債)の残高は、新たな借入金よりも過去の借入金の返済が多くなったことから、令和3年度よりも約20億円減少して357億円となりました。このうち、後年度に国から補てんされる分を除いた実質的な市の負担額は110億円です。

### 貯金(基金)の残高



### 借入金(市債)の残高



Q 市がお金を借り入れるのはどうして?



A 道路や学校など、将来にわたって使用することができる公共施設の整備費用を、現在の世代だけが負担(納税)することは公平ではありません。市の借金には、将来の世代にも返済費用を負担していただくことで、世代間の公平性を実現するという役割があります。

## 財政健全化の取組

持続可能な財政基盤をつくり、健全財政を将来世代につないでいけるよう、市は「財政健全化計画」を策定し、5年間(令和4~8年度)の対象期間を定め、収入の確保や支出の見直しに取り組んでいます。

令和4年度は取組の初年度として、計画を上回る約5億円の取組効果が生まれました。

計画の基本方針	令和4年度の取組効果額		
	実績(A)	計画(B)	差引(A-B)
収入の確保	2億5,657万円	1億4,200万円	1億1,457万円
支出の見直し	2億3,208万円	4,943万円	1億8,265万円
計	<b>4億8,865万円</b>	1億9,143万円	2億9,722万円

主な取組内容	取組効果額
ふるさと納税(寄附金)	2億 889万円
一般会計から国民健康保険特別会計への赤字補てんのための繰出金の廃止	1億9,449万円
市税の徴収率の向上	4,246万円
市職員の時間外勤務手当の削減	751万円

## 今後の取組の方向性

今後においても、人口減少に伴い市税などの収入の増加が期待できない一方で、高齢化の進展による社会保障費や老朽化した公共施設の改修費用など、支出の増大が見込まれるところです。

このため、今後の各年度の決算状況や社会経済情勢、国・県の動向などを十分に見定めた上で、財政健全化に向けた取組を継続していきます。

# 令和4年度 決算見込の概要

決算とは、1年間の収入(歳入)と支出(歳出)の結果をまとめたものです。

令和4年度の一般会計の収入と支出の差額は5億2,806万円で、令和5年度予算へ繰り越すべき額1億3,404万円を差し引いた実質的な収支は3億9,402万円の黒字となりました。

この要因は、一時的な収入の増加により大幅な黒字となった令和3年度からの繰越金9億3,747万円が収入に含まれるためです。

(市)財政課 財政係

## 収入と支出

	収入額(A)	支出額(B)	差引(A)-(B)
一般会計	362億5,557万円	357億2,751万円	5億2,806万円
特別会計			
国民健康保険	90億 958万円	89億2,339万円	8,619万円
介護保険	72億3,879万円	72億 536万円	3,343万円
後期高齢者医療事業	14億9,468万円	14億6,177万円	3,291万円
学校給食事業	2億8,257万円	2億8,228万円	29万円

◎企業会計(水道・下水道)の決算については、広報みき11月号でお知らせします。

◎国民健康保険特別会計の令和4年度決算見込の詳細は、15ページを確認してください。

令和4年度もさまざまな事業に取り組みました  
その中から**主な事業**を紹介します!

## まちの活性化や教育環境の充実、健康増進や三木ブランド向上への取組

▶入院に係る医療費の無償化の対象を「中学生まで」から「高校生まで」に拡大

▶子どもの居場所づくりとして取り組んでいる子ども食堂への支援

▶スケートボードパークのセクションの追加整備

▶生活に困窮している世帯などの子どもの学習支援の開始

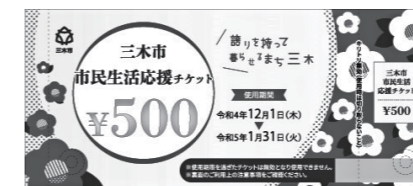
▶健康づくりやデジタル化を推進するため「みっき健康アプリ」の運用の開始

▶道の駅みきにおける金物鷲の常設展示を支援し、三木金物の更なるブランド化とPRの実施



## 新型コロナ対策と物価高騰への対応

▶市民1人5千円の市民生活応援チケットの配付



▶高校生などのいる世帯へ応援給付金の支給

▶小・中・特別支援学校の2・3学期の給食費の無償化

▶住民税非課税世帯へ臨時特別給付金などの支給

▶農業生産者に経営継続支援金、物価高騰対策支援金などの支給